

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 6 月 10 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (6/10 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレィ系：約 1.8 m ³ /h	25.9	106.7 kPa abs	A系： 0.01 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.02 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレィ系：約 3.6 m ³ /h	38.8	6.43 kPa g	A系： 0.06 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.05 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレィ系：約 3.4 m ³ /h	36.9	0.24 kPa g	A系： 0.12 Vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.11 vol%

*：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【3号機】・6/9 18:11 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.8 m³/h から約 2.0 m³/h、炉心スプレィ系からの注水量を約 3.3 m³/h から約 3.5 m³/h に調整。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (6/10 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	24.5
2号機	循環冷却システム	停止中	23.2
3号機	循環冷却システム	運転中	20.9
4号機	循環冷却システム	運転中	29

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウエルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

【2号機】・6/10 6:25 ~ 6/14(予定) 計器の定期点検に伴い、使用済燃料プール代替冷却系を停止。停止時間は6/14までの約111時間を予定。なお、冷却系停止時の使用済燃料プール水温は22.9 であり、プール水温度上昇率評価値は 0.182 /h で停止中のプール水温上昇は約 20.2 と評価されることから、運転上の制限値 65 に対して余裕があり、使用済燃料プール水温管理上問題ない。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋地下	6/8 9:55 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	6/7 12:02 ~ 移送実施中
6号機	6号機 タービン建屋	仮設タンク	6/10 10:00 ~ 15:00 移送実施

・H25/1/28 東北地方太平洋沖地震により、建屋および屋外トレンチが浸水している5・6号機について、建屋内の水位上昇を抑制するため、建屋内滞留水の移送を継続しているが、更なる安全性向上に資することを目的として、非常用ガス処理系*1の屋外トレンチから仮設タンクへの滞留水の移送を開始。

*1 原子炉建屋内の空気を高性能のフィルターで浄化して排気筒より放出する系統で、(A)、(B)の2系列ある。

< 4 . 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (6/10 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H25/3/30 9:56 ~ 多核種除去設備(ALPS)の3系統(A~C)のうちA系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験(ホット試験)を開始。

H25/6/11 ~ 6/14 使用済セシウム吸着塔一時保管施設(第二施設)のクレーン改造工事に伴い、多核種除去設備(ALPS)を停止予定。

< 5 . その他 >

・H23/10/7 ~ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。

・H24/4/25 ~ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

・H25/6/7 ~ 4号機燃料取り出し用カバー設置工事において、使用済燃料プール内の燃料を取り出す際にカバー内で使用する天井クレーンの部材の上架作業を開始。なお、上架された部材については、順次、カバー内で組み立て作業を行う予定。また、準備が整い次第、7月上旬頃より燃料取扱機についても同様の作業を開始する予定。

・H25/2/15 6号機原子炉建屋大物搬入口において外扉を閉め、内扉(吊り上げて開閉する扉)を開けて物品の搬出作業を行っていたところ、内扉が落下。落下した扉は転倒なし。なお、けが人の発生およびプラントへの影響は確認されていない。

落下状況等の調査の結果、6号機電気工事において、資機材搬出のため原子炉建屋大物搬入口の内扉を開操作したところ、内扉が開動作中(上昇中)にリミットスイッチが脱落し、操作ボタンにより停止操作をしたが上昇が停止しなかったため、電源を切り内扉を強制的に停止しており、内扉の上昇は停止したが、その後内扉が床面まで落下ことが判明。現場を確認したところ、内扉本体の損傷は確認されたが、周辺機器および床面には異常は確認されていない。なお、内扉昇降用チェーンとのつなぎ部が損傷していることも確認された。

落下の原因調査の結果、巻上げ装置を停止する制御装置が内部劣化により故障し、内扉昇降用チェーンの吊り部材が破断に至るまで巻上げられ破断し、内扉が床面まで落下したものと判断した。また、当該の内扉について、H24/3/1の運用再開まで約2年間使用していなかったが、動作確認のみで詳細点検を実施していなかった。

以上の調査結果を受けて、今後準備が整い次第、以下の対策を実施予定。

- ・制御盤の新規取替
- ・長期停止後の使用再開時には詳細点検を実施

また、制御盤の新規取替にあわせて、以下の機能を追加予定。

- ・巻上げ装置に過巻き停止機能を追加
- ・過負荷停止機能の追加
- ・緊急停止ボタンの設置

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

< 地下貯水槽に貯水している水移送実績 >

5/21 10:19 ~ 5/23 16:02 地下貯水槽 No.6 から G6 タンクへの移送を実施。なお、地下貯水槽 No.3 および No.6 から G6 タンクへの移送については、共通の移送ラインを使用することから、交互に切り替えて移送を実施する予定。

5/25 10:25 ~ 5/28 9:05 地下貯水槽 No.3 から G6 タンクへの移送を実施。

5/28 9:54 ~ 5/30 16:00 地下貯水槽 No.6 から G6 タンクへの移送を実施。

6/1 10:12 ~ 6/3 14:04 地下貯水槽 No.3 から G6 タンクへの移送を実施。

6/3 14:36 ~ 6/4 17:30 地下貯水槽 No.6 から G6 タンクへの移送を実施。

6/3 14:18 ~ 6/6 12:38 地下貯水槽 No.3 の残水について、仮設ラインを使用し、地下貯水槽 No.6 へ移送を実施。なお、5/18 から 6/3 までの期間における地下貯水槽 No.3 から G6 エリアへの移送量は約 8,200m³、6/3 から 6/6 までの期間における地下貯水槽 No.3 から地下貯水槽 No.6 への移送量は約 200m³。

6/5 9:25 ~ 6/5 12:45 地下貯水槽 No.6 から G6 タンクへの汚染水(残水)の移送を実施していたが(移送は日中のみ実施)、6/5 に発生した G6 タンクからの水の漏えいをうけて、念のため移送を一旦停止。

6/6 14:38 ~ 6/9 13:55 地下貯水槽 No.6 から G6 タンクへの汚染水(残水)の移送を実施。なお、5/21 から 6/9 まで

6/11

の期間における地下貯水槽 No. 6 から G 6 エリアへの移送量は約 7,900m³。

地下貯水槽 No. 4 (5・6号機滞留水の貯蔵に使用中) から 6号機タービン建屋地下を經由して、Fエリアタンクへの移送を開始する予定。地下貯水槽 No. 4 から 6号機タービン建屋地下への水の移送については、仮設ラインを使用し、日中時間帯に実施する。

なお、移送は7月上旬まで継続して実施する予定。

< 拡散防止対策 >

6/8～6/10 地下貯水槽 No.1～3の漏えい検知孔内に漏えいした水および地下貯水槽 No.2 のドレン孔に漏えいした水をノッチタンクへ移送する処置を実施。

< サンプルング実績 >

6/7～6/9 地下貯水槽 No.1～7のドレン孔水(14箇所)、地下貯水槽 No.1～4, 6の漏えい検知孔水(10箇所のうち2箇所は試料採取不可)、地下貯水槽観測孔(22箇所)についてサンプルングを実施。分析の結果、各日とも前の回に実施したサンプルングの分析結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上